

いちおかいちばん

一丘中学校だより 2023. 3. 15

第48回 卒業式 式辞

2か月の休校からはじまった中学校3年間の生活が終わろうとしています。今日はその3年間の生活の象徴となったマスクをはずしてみなさんにお話させていただきたいと思います。

この先、みなさんは「コロナ世代」などと呼ばれるのかもしれませんが。大人はなぜか世代をひとくくりにして表現するのが好きです。みなさんより少し上の世代の若者たちは「Z世代」などと呼ばれたりしています。しかしみなさんは決して「世代」で生きているのではありません。「〇〇世代」とひとくくり表現されることには心の中で抵抗してほしいと思います。

多様性を認めることが大切だとよく言いますが、それは、障がい、性の問題、国籍の違いの話だけではなく、大人も子どもも世代の違いをお互いに認め合うことの大切さも含まれます。私は60歳になりますが、これからはもっと若い友だちをたくさん作りたいと思っています。世代を超えて、対等に意見を言い合える友だちをたくさん作りたいと思っています。「〇〇世代」なんて関係のない話。48期生のみなさんともこれからはぜひ友だちになってほしいと願っています。

さて、これから友だちとなるみなさんへ。校長という立場での最後のメッセージを三つ伝えたいと思います。

「友よ、失敗せよ。」一つ目は、昨日、織野先生も話してくださっていた「失敗」についてです。

人間にはいろいろな「権利」があります。その中でもせつかく私たちに与えられているのに

簡単に手放してしまいがちな大切な「権利」があります。「それは失敗する権利」です。「これまでそうだったから」という習慣やルールに身をゆだねて生きるのは楽かもしれませんが、「なぜそうするのか？」という問いを自分で立て、道に迷ったら、失敗をおそれずチャレンジする方向を選んでください。すると当然失敗することがあります。良いではありませんか。大いに失敗してください。そしてそれを次に活かしてください。

「友よ、自由を求めよ。」二つ目は「自由」についてです。

自由という言葉にはとても広い意味があります。ここでいう自由とは「自分で選び、自分で決める」という自由です。これを大事にしてほしいです。自己選択、自己決定できるということが人間にとって一番幸せなことです。そしてもう一つ大事なことは他人の自由も守ることです。自分の自由と同時に、他人の自由を大切にできる本当の意味の自由人であってほしいと願っています。

「友よ、地球人であれ。」三つ目は「地球人」についてです。昨日、渡邊先生は外の世界を見ようというお話をしてくださいました。

日本人ではありません。80億分の1の地球人であることを忘れないでください。大地震で5万人以上の方が亡くなって悲しみに暮れている国や地域があるのに、なぜわざわざ戦争で人の命を奪い合う国や地域があるのか。なぜ一緒に暮らすこの小さな星を自分たちで傷つけていくのか、そんなことに憤りと矛盾を感じ続け、行動に移してほしいです。

「失敗せよ」「自由を求めよ」「地球人であれ」この三つを一丘中学校第48期生のみなさんへのはなむけの言葉としたいと思います。

最後に、友よ。本当にありがとう。これは3年生の先生方をはじめ、すべての先生の気持ちです。学校に来てくれてありがとう。こんなマスクの生活に3年間協力してくれてありがとう。学校の主役は誰かと尋ねたらみんな「生徒」と答えてくれてありがとう。クラブ対抗リレーを復活させてくれてありがとう。一緒に遊んでくれてありがとう。一緒に歌ってくれてありがとう。毎日私たちに元気をくれてありがとう。

みなさんは私の宝物です。幸せに。元気でね。

校長 大泉 志保

卒業生答辞

暖かい日差しがさし、春の風が教室の窓から感じられるようになりました。3年間過ごしてきた私たちの学校。今日で48期生は卒業を迎えます。3年前の春。まだ小学生だった私たち。卒業を目の前にしたあの日、休校という大きな壁にぶつかりました。小学校の仲間とちゃんとしたお別れもできないまま、この一丘中学校に入学しました。始業式ができたのは、夏を感じる6月のことでした。中学生になった実感はなく、勉強や友達作りに不安しかありませんでした。毎日学校に行けていたのは、とても幸せなことだったと初めて感じました。短縮や分散登校、慣れないマスク生活。黒板には「早くみんなで会いたいね」とメッセージを書きました。行事も中止や縮小になり、異例としか言えないような1年間でした。

2年生の体育大会では、みんなで踊ったソーラン節が心に残っています。自分たちで動きやフォーメーションを考え、当日は最高の演技ができました。合唱コンクールは中止になってしまったけれども、練習を重ねたことで、クラスの絆が深まりました。

コロナが落ち着く様子もないまま、私たちの中学校生活最後の1年が始まりました。一つ一つの行事をしっかりと楽しむこと、そして、一日を大切に、悔いなく過ごすことを心に決めました。最初で最後の合唱コンクール。クラスで歌声を一つにする事の難しさを知りました。本番では、練習の成果を出せて、素晴らしい合唱を披露することができました。そしてなんとといっても、最後の学校行事、修学旅行。バスでのレクリエーションでは大いに盛り上がり、クラスミーティングではみんなの思いを知ることができました。仲間たちと過ごした二日間は、特別な思い出となりました。

行事が終わるといよいよ勉強が本格的になりました。進路に迷い、未来が見えなくなることもありました。周りと比べて落ち込んだ日々、成績が上がらなくて泣いた夜。友達とお互いにメッセージを送り合い、家族に背中をおされ、最後は自分を信じて悔いなく受験を終えることができました。学校での思い出もたくさんできました。友達と励まし合いながらやった勉強。汗水たらして運動場でやったサッカーやバスケット。昼休みにたわいもないことで笑い合った日々もありました。何度も辞めようと思った部活動。でも仲間がいたから最後まで続

けることができました。学校のため、みんなのために頑張った生徒会・委員会活動。たくさん活動を通して前に立つ楽しさだけでなく、責任という重みも感じることができました。大切な親友と過ごした日々は宝物になりました。人にはいろんな人がいて、みんなそれぞれだということ。ときには「折り合いをつける」ことも大切だと知りました。仲間と協力したり、団結する難しさ。そして楽しさを知りました。努力が報われないこともあったけど、その過程は決して無駄なものではなく、自分の自信となりました。楽しい日々は、いつかは過ぎていくものだということ。生きているということは、決して当たり前ではないことがわかりました。中学校生活はたった3年間でしたが、学んだことはこの先何十年と役に立つことばかりでした。一丘中でよかった、そう思える場面がたくさんありました。

これからの道は、今まで以上に迷ったり悩んだりすることもあるでしょう。それでも恐れることはありません。一丘中での思い出が、私たちに新たな一歩を踏み出す勇気をくれます。私たちは、これからも周りの人を大切に、自分を大切にすることを誓います。

それぞれの新しい道へと歩み始める時が、いよいよやってきました。マスク越しという制限はあっても、笑い合い、ときに励まし合い、ずっとそばにいてくれた親友。私たちが決めた進路を応援してくれ、全力で向き合ってくれた先生。そして何より、どんなことにも寄り添ってくれて、私たちの一番の味方でいてくれた家族。

今までありがとう！中学校生活、最高に楽しかった！

卒業生代表 山本 幸実